

FUJICOLOR RECORDING FILM

# ETERNA

## -RDI for Digital Intermediate

35mm Type 8511/4511 (PET)

ETERNA-RDI使用映画『劇場版 NARUTO-ナルト-疾風伝』  
『劇場版 仮面ライダー電王』がこの夏に公開されました。  
作品を制作された各プロデューサー、  
フィルムレコーディング作業をされた各現像所を取材し、  
ETERNA-RDIの特性や効果について伺いました。

### 劇場版 仮面ライダー電王



◆東映株式会社  
プロデューサー 白倉 伸一郎

『劇場版 仮面ライダー電王』はバリアムのHDで撮影しています。デジタル原画からETERNA-RDIを使っているフィルムレコーディングを経て、劇場用のプリントを作りました。

もともと24Pで撮影したのは、2001年の『劇場版 仮面ライダーアギト』が最初でした。アギト以降7作品を制作してきて、デジタルプロジェクターのクリアさに比べて、映画館ではどうしても色ムラや輪郭のにじみ、白と黒の画面でのノイズが気になり、フィルムでの上映に限界を感じ始めていました。そんな時に再度登場したのがETERNA-RDIです。このフィルムは階調の幅が申し分なくて、発色がとてもよく、今までとは全然違うフィルムでした。

フェイスーンはもちろん、特にライダーの主役ともいえる赤の色がとてもいいんですよ。仮面ライダーは衣裳に特殊な塗料を使っていて、光のあたり方によって赤から、オレンジ、イエローと色が変わって立体感を出して

います。その色が出ないで、つぶれた感じになってしまうとせっかくの衣裳が元も子もありません。

一番やっかいなのは白と黒のノイズで、今までは多少ムラも出ていました。しかし今回は完全にとばない一歩手前の白や、つぶれきる前の黒とか、グラデーションがきちんと出ていてノイズが極めて少ないことは大きなメリットでした。

実は前作までの『劇場版 仮面ライダー』では、HDの画をいかにきれいに仕上げるかを中心に考えていました。しかしそれはHDが上でフィルムが下みたいな考え方だったと反省しています。HDの画を再現することがテーマではなく、フィルム上でいかにきれいに美しく表現できるかが、あくまでも重要だと思います。HDの画は決してゴールではないのですから、HDではかなわないフィルムの階調性やラチチュードなどをいかした作品を作っていきたいと考えています。

ETERNA-RDIの登場により、フィルムという技術が限界ではないことを教えられました。また、これが自分の待望していたフィルムだと気づかされました。



◆東映ラボ・テック株式会社  
映像プロセス部 部長 木村 栄二

実写では『劇場版 仮面ライダー電王』がETERNA-RDIを使った最初の作品です。最初にテストしてみて、まさかと思うほど今まで使っていたフィルムと色の出方が違いましたね。一番違うのは従来の黄色のにじみが出なくなった点です。色ずれが本当に少なく、画面にきれいな黄色が入るようになりました。

これはデジタルシネマトグラフィーのデータをトランスファーするには最適のフィルムですね。色の再現性が良く、細かなディテールもにじまない。ハイライトの中に文字を焼き付けたときに膨張してくることもない。これは革命的なフィルムですよ。

現時点で「映画館のスクリーンで一番良い画を出すには」と考えたときは、

迷わずETERNA-RDIを選びます。画像って測定したデータでは判らない部分ってあるじゃないですか、ETERNA-RDIは最終的に目で見て判断、納得できたんですよ。DI(デジタル・インターメディアイト)に使えるフィルムがやっと出たんですよ。

ETERNA-RDIは、DIの分野では大変強力な武器となるのではないのでしょうか。あとはラボの技術力にかかっています。それによって色の出方が違ってきますから…。ラボがどうやってETERNA-RDIをいかして使っていくか、今後が楽しみです。

東映ラボ・テックでは『劇場版 仮面ライダー電王』以降、ETERNA-RDIを使ってフィルムレコーディングした作品として『獣拳戦隊ゲキレンジャー 電撃版』、『人が人を愛することのどうしようもなさ』(石井隆監督)、『仮面ライダー THE NEXT』(田崎竜太監督／10.27公開)、『相棒-劇場版-』(和泉聖治監督／2008年春公開)など、続々とまわっています。

### 劇場版 NARUTO-ナルト-疾風伝



◆株式会社びえろ  
プロデューサー 押切 万耀

NARUTOは今回で4作目。1年に1作品を作っています。制作期間の前半はストーリーを練り、後半が実際の制作期間となっています。監督は毎回違うので、いつも新しい作品を手がける気持ちで作っています。僕はいつもノーマルの空の色を基準にしているのですが、ETERNA-RDIは、空の青さの再現性がとても良いと最初に思いましたね。亀垣一監督をはじめとしてスタッフは、夜の色や暗いシーンの再現性も優れていたという意見が多かった。この二つが決め手でETERNA-RDIを採用しました。

今回のストーリーは、夜の闇の中を移動したり、戦ったりする暗めのシーンが多くありますので、そのシーンがきちんと表現できてないと、観客に「運命」というテーマが伝わりづらくなります。映画版はテレビと違って色彩を

おさえ気味にしているのですが、その際に黒のバランスがどこまで出るかが表現の基準にありました。ETERNA-RDIはそこに非常に良く対応してくれたフィルムでした。今回はモニター上で作ったもの、つまりデジタルで決めこんだものを、そのまま再現できたことが良かった点ですね。

テレビ版のNARUTOは家庭の明るい部屋で見るので、色の彩度がはっきりとしたわかりやすい色で作っています。ナルトのカラーであるオレンジが目立たないとダメなんです。しかし映画の場合、観客は時間とお金を使って映像を集中して見てくれますので、中間色を多く使い、しっとりなじむ色になるように意識しています。そこが今回ETERNA-RDIで見事に再現できました。

デジタルが特化していくと、どんどんクリアでシャープな映像になっていくと思いますが、アニメーションのキャラクターでの色彩表現の場合はデジタル上で作る単色の組み合わせで作っていますので、今後の制作においては、むしろ昔のフィルムの質感に戻したのも作ってみたいと考えています。



◆株式会社東京現像所  
映像本部 副本部長 木下 良仁 映像本部 ビジュアルイメージ部 次長 井出 義雄

井出 NARUTOでは毎回フィルムレコーディングのテストをしています。今回の亀垣監督は「僕の視力がひとつ上がったくらいに見えた。」と上手い表現でおっしゃっていました。つまり、明らかにシャープネスが違っていったということです。ETERNA-RDIは、シャドウ部分の色バランスが格段に良くなっています。今までハイライトとシャドウの部分がある場合、シャドウ側に色が出にくかったり、青かったりしていましたが、そこが明らかに違っているんです。また白のヌケもたいへん優れていました。その性能をNARUTOのスタッフの皆さんへお伝えしたところ、納得、評価を頂いて、ETERNA-RDIを使った世界初の作品が『劇場版 NARUTO-ナルト-疾風伝』となりました。

木下 特にARRILASERの波長に合わせてところのシャープネスと、色の再現性が大きなポイントだと思いました。

僕は前からARRILASERに特化したフィルムを望んでいたんですよ。NARUTO以降の24Pで撮影した作品のテストでは、ETERNA-RDIの評判がとても高いですね。ハイライトがRGBでどこまで再現できるかを見ると一目瞭然です。今までブルーでは、16段階あるチャートの下4段階は同じ色でしか出ていませんでしたから…。アメリカのNABでETERNA-RDIを最初に発表したときに、世界中のARRIユーザーたちはデモを見てその性能に大変驚いていましたよ。

井出 日本は24Pを含むビデオで撮影の劇場公開映画が、世界で一番多い国だと思います。

木下 一昨年から24Pで作品がとて増えてきました。当社でも劇場で公開される映画の50パーセントを超えてきています。

井出 24Pが増えてきた理由は、テレビ番組の劇場版映画の制作が多くなってきたこともひとつの原因。劇場版のアニメ作品もどんどん増えてきていて、当社では今年の8月末までに20作品程を作業しています。今後は24P撮影された作品や、劇場版のアニメ作品が増えているので、ETERNA-RDIはかせないフィルムになってくると思います。

※ ARRILASER / レーザー方式フィルムレコーダー。半導体のレーザーを使った世界で最初のレコーダーで、1つの波長でRGBをRとGとBを照射して、フィルム上に1本にまとめてフィルムレコーディングをおこなう。2Kで12ミクロン、4Kで6ミクロンという細かなレーザーに変えていくので、従来のフィルムレコーダーよりも解像度が高く、世界中ですでに300台以上が販売されている。現状でフィルムレコーダーと書けばARRILASERが代名詞となっている。